



小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

か 飼っている子メダカの数、へってしまうのはなぜなの



子メダカを、おとなや少し成長したメダカといっしょに飼うと、小さいものはえさと思われ、食われてしまうからだよ。

たまごや子魚は、おとなのメダカと同じ水そうに入れてはいけない

メダカを飼っていると、水温が 18 をこえる 4 月ごろから、たまごを産み始めます。夜明け前ごろ産んだたまごを、メスは、^{はら}腹にくっつけたまま泳いでいることが多いけれど、やがて、水草などからみつけます。そのたまごが外から見つけにくい水草のかげにくっついたなら、ぶじにふ化して、子魚が生まれます。

でも、たいてい、おとなのメダカがたまごを見つけ、えさだと思って食べてしまいます。そのため、子魚まで育つメダカは、大変少なくなります。また、生まれてきた子魚も、ほとんどが、やはり体の大きいメダカに食われてしまいます。

そこで、メダカが産卵したのを見つけたら、いそいでたまごだけを別な入れ物に移して、ふ化させます。

産卵日がちがうたまごは、いっしょにしないほうがいい

たくさん飼っていると、メダカは毎日のようにたまごを産みます。そのたまごを毎日集めて別な入れ物に移し、親と別にしてふ化させると、産卵された順につきつぎと子魚が生まれてきます。やがて、成長がちがう子魚が同じ入れ物の中でいっしょになるため、体の大きいものや小さいものが入り混じります。そして、大きく育った子魚に小さい子魚が食われることが起きてきます。

できるだけ集めたたまごは、同じ日のもの以外は、別々の入れ物に分けてふ化させましょう。生まれた子魚を、親と同じ水そうにもどしても食われる心配がなくなるのは、体の大きさが親の 3 分の 2 以上に育ったときです。

メダカがたくさんたまごを産むのは、生き残る数が少ないからなのね。

